

平成 23 年度 第 1 回英語学教育 FD/ICT 活用研究委員会 議事概要

日時 : 平成 23 年 7 月 16 日 (土) 13:30 ~ 15:30

場所 : 私立大学情報教育協会 事務局 会議室

出席者 : 山本涼一委員長、田中副委員長、五十嵐委員、西納委員、山本英一委員
(事務局) 井端事務局長、森下主幹、松本職員

記録 : 山本英一委員

I 事業報告について

ポイント

5 年先に入学してくる学生を想定して教育モデルを研究する
「未知の時代を生き抜く能力」を提供できる教育を目指す

- ・ SNS の活用
- ・ グループによる学び合いとシステムによる支援
- ・ 補完学習
- ・ ピアサポート
- ・ 面接試験の導入 (卒業論文)

以上の視点を、今回の改善案とも関連させたい。

II 英語教育における教育改善モデル (中間まとめ案) に対する意見

<モデル 1 に関して>

ポイント

1. e-Learning の誤解を解く
2. 英語でできるだけ授業をする
3. 授業を画像に残し編集する
4. グループワークの誤解を解く

- ・ e-Learning とは、管理型 (個人学習) だけではない。ドリルのイメージから発展させる。
- ・ 英語による教育・学習は当然。ただし、数値を明示せず、5 年後の到達目標とする。教室で留学の環境を作ることが主眼。
- ・ 授業を画像として残り編集する。学生だけでなく、教師のリフレクションにも役立ち、他の教員の FD にも応用できる。学生が編集に加わることは教育にも役立つ。
- ・ 教員主導の教室、あるいはドリル中心の学習から、グループワークが役立つ教育への転換が必要。

- ・ <モデル2に関して>

ポイント

1. チームティーチング の誤解を解く
2. 専門語彙について触れる
3. 専門教育との接点を作る

- ・ 「チームティーチング」は固定概念があるので、教室外にも広がるコンセプトとして、「協働教育」と言った方が適切。
- ・ 専門語彙の特定と、その指導法にも言及したい。
- ・ 専門教育、とりわけ理工系を突破口にして、アウトカムを英語で行うように呼びかけながら、横の連携を深めていくことが大切。

Ⅲ 評価について

- ・ 到達度評価/習熟度評価： 2つの側面から評価を検討。
- ・ 評価の対象：モデル1＝生活上の英語理解、モデル2＝専門分野の能力
- ・ 面接による評価について：英語と専門双方がそれぞれの立場から評価を行い、後に統合することが理想。

以上、Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを踏まえて、英語教育における教育改善モデル（1&2）を8月中にまとめることとする。改善案1改善案2についての改定案は、8月15日を目処にメーリングリストに投稿。8月24日に開催予定の第2回委員会で議論のうえ、最終案を作成する。

以上。